

平成 23 年度 事業報告

公益社団法人日本スカッシュ協会

(1) スカッシュ競技の普及に関する事業

① スカッシュデー・スカッシュウィークの実施

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

主管：全国のスポーツクラブ及び地区支部等

日程：<スカッシュデー>平成 24 年 2 月 11 日

<スカッシュウィーク>平成 24 年 2 月 4 日～12 日

会場：全国のスポーツクラブのスカッシュコート等

目的：スカッシュ体験を広い層へ促し、実体験からスカッシュの楽しさを伝えて一層の普及を図った。

対象：性別・年齢を問わず広く一般

参加人数：1,942 名 (55 施設)

内容：スカッシュ体験会、試打会、ヒッティングパートナー、コーチング、レンタル無料デー、スカッシュ大会、ゲーム大会等

② 広報活動

イ) 広報機関誌<SQUASH>の発行 (年 2 回)

Vol. 69 (夏の号) 平成 23 年 7 月 25 日発行

Vol. 70 (冬の号) 平成 24 年 2 月 25 日発行

ロ) 協会ホームページの運営

ハ) Twitter、Facebook での情報発信の実施

ニ) 体育協会記者クラブ等マスコミへのプレスリリース等情報提供

③ 大会等のスポンサー対策及び増進

④ 普及渉外委員会の「環境対策委員会」にて、大会等で JSA エコプロジェクトを展開

イ) JOC の環境活動の一環として JSA エコキャンペーンを全日本選手権で展開

ロ) JOC 発行平成 23 年度スポーツ環境専門委員会活動報告書に活動を報告

(2) スカッシュ競技の競技力の向上に関する事業

① アクションプラン活動とアクションプラン募金活動

目的：世界に通じる選手の育成と指導者の養成

対象：選手強化活動、コーチ養成

内容：

イ) ナショナル強化プロジェクトチームによる JSA 強化指定選手の選考と強化を図った。

ロ) 全国地区支部や協会の大会等に於ける募金活動 (募金は主に海外遠征等の充実の為に活用)

② ナショナルスカッシュ強化練習会及び合宿の開催

イ) 5 月度ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：5月26日
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE
目的：ドライブの精度と質の向上、ドライブの戦術的使い方
対象：JSA 強化指定ジュニア選手
参加人数：6名
成果：参加選手の基礎的な技術の向上

ロ) 6月度ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会
日程：6月16日
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE
目的：アジアジュニア個人戦出発前の強化練習
対象：JSA 強化指定ジュニア選手
参加人数：6名
成果：参加選手の強化・調整

ハ) 7月度ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会
日程：7月23日
会場：フットネスハウスパレット中川
目的：ドライブの精度と質の向上、ラリーの中でのドライブの使い方、プレッシャー下でのゲーム練習、コートスプリントにおける目的と方法の説明と実施
対象：JSA 強化指定ジュニア選手
参加人数：11名
成果：参加選手の強化、国際大会を明確な目標として再認識

二) 10月度ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会
日程：10月6日
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE
目的：ジュニア選手の技術向上
対象：JSA 強化指定ジュニア選手
参加人数：6名
成果：参加選手の基礎的な技術の向上

ホ) 12月度ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会
日程：12月8日
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE
目的：ドライブの精度と質の向上、ドライブからフロントへのアタックとそのリカバリー、コア・バランスのチェック
対象：JSA 強化指定ジュニア選手
参加人数：6名
成果：参加選手の基礎的な技術の向上

へ) 西日本ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：12月17日・18日

会場：Jcourt/マスカットスタジアム(西日本ナショナルトレーニング)

目的：ジュニア選手の技術向上

対象：JSA強化指定ジュニア選手

参加人数：15名

成果：参加選手の基礎的な技術の向上

ト) 東日本ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：12月23日

会場：グランデリアスポーツ麻生(東日本ナショナルトレーニング)

目的：ジュニア選手の技術向上

対象：JSA強化指定ジュニア選手

参加人数：12名

成果：参加選手の基礎的な技術の向上

③ JSA 公認レベルT (普及トレーナー) 認定講習会と認定試験の開催

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：平成24年3月18日

会場：コナミスポーツクラブ恵比寿

目的：スカッシュの正しい知識と指導法の体得とさらなる技術向上

対象：スカッシュ初心者レベルでのグループ作り等のサポートが可能な者

参加人数：1名、合格

成果：基本知識・基本ショットの正しいストローク方法・レフリー・マーカールの基礎知識等の習得、スカッシュの技術向上

④ JSA 公認審判講習会と認定試験の開催、開催支援と公認<2級・3級・4級>

主催：(公社) 日本スカッシュ協会及び全国の地区都道府県支部

日程：年8回全国で開催(下表)

目的：レフリー・マーカールの正しい知識を習得し、スカッシュ審判の一層の技術向上を目的とする

対象：4級—一般、ジュニア等のスカッシュ経験が浅い者等

3級—スカッシュの競技歴が1年以上と認められる者等

2級—スカッシュの競技歴が3年以上と認められる者等

参加人数：下表を参照

成果：

イ) 講習会：正しいルール、レフリー・マーカールのあり方、ジャッジ(判断)の進め方、トラブル対処方法、観客や試合のコントロール方法の学習

ロ) 筆記試験と実技(DVD)：試験の点数により認定の可否を決定

日程	会場	主催・ 主管支 部	受講 者数	受 験 者数	受験結果				備考
					2級 合格	3級 合格	4級 合格	追試	
4月24日	西宮市中央公民	関西		9		3			追試のみ
5月22日	札幌スカッシュスタジアム SQ-CUBE	北海道		5		4			追試のみ
7月3日	杉並区阿佐ヶ谷地域区民センター	JSA	35	22		5		9	
8月7日	広島市佐伯区民文化センター	中国四国	13	13		2		8	
10月10日	横浜市港北公会堂	神奈川	13	10		2		6	
3月20日	セントラルウェルネスクラブ札幌	北海道	17	16		1		7	
3月20日	西宮市中央公民館	関西	33	24		2		13	
3月25日	西宮市中央公民館	関西	19	14		4		5	
		計	130	113		23		48	

⑤ JSA 承認審判講師スキルアップ研修会

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：7月2日

会場：杉並区阿佐ヶ谷地域区民センター

目的：最新ルールの確認と試験についての統一見解を図る。

対象：JSA レフリー委員及び地区支部又は県支部の承認講師

参加人数：9名

成果：東アジアスカッシュ連盟主催レフリー会議でのフィードバックと最新の国際試合でのレフリング状況の説明を行い、試験問題の見直しや実技(DVD) 試験問題の解答について再見直しを行って統一を図った。

⑥ JSA 審判員スキルアップ研修会

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：7月2日

会場：杉並区阿佐ヶ谷地域区民センター

目的：最新ルールに基づくレフリング状況の説明

対象：JSA 公認審判員

参加人数：7名

成果：レフリングにおける最新ルールの説明と国際試合での状況の説明を行なった。

(3) スカッシュ競技の競技大会に関する事業

① 協会主催の競技大会

イ) 第22回全日本アンダー23 スカッシュ選手権大会

日程：6月4日～5日

会場：セントラルフィットネスクラブ錦糸町

目的：日本のトップを目指す若いプレイヤーの育成強化

対象：23歳未満の男女

参加人数：89名

競技方式：トーナメント制

競技結果：男子優勝/鈴木優希（獨協大学）女子優勝/松澤彩香（iBEX スポーツ）

ロ) 協会設立 40 周年記念チャリティーイベント

日程：6 月 25 日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：東日本大震災復興支援

対象：性別・年齢を問わず広く一般

参加人数：138 名

内容：ワンゲームトーナメント&イベント

ハ) 第 25 回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

日程：8 月 17 日～20 日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：国内外のジュニア選手の交流・技術向上

対象：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13、11 の男女

参加人数：127 名

競技方式：トーナメント制

競技結果：U19 男子優勝/小林僚生(Sunset Breeze)

U19 女子優勝/杉本梨沙（近江高校）

ニ) 第 16 回マスタースカーニバル

日程：10 月 8 日～9 日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：マスタース層の交流・技術向上

対象：年齢カテゴリー各 30、40、50、60 以上（初心者～ベテラン）の男女

参加人数：167 名及び 30 組

競技方式：トーナメント及びリーグ制、トリオマッチ

成果：2 日間開催によってマスタース年代のスカッシュ愛好家親睦と交友拡大

ホ) 第 40 回全日本スカッシュ選手権大会

日程：11 月 23 日～27 日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：交流と技術向上及び全日本チャンピオンの決定

対象：選手権/全国選手権上位入賞者及び規定資格保有者、日本国籍を有する者、
男女マスタース/日本国籍を有する者、各年齢対象者

参加人数：238 名

競技方式：トーナメント制

競技結果：男子優勝/机伸之介（初優勝） 女子優勝/小林海咲（3 連覇）

ヘ) JOC ジュニアオリンピックカップ第 16 回全日本ジュニア選手権大会

日程：平成 24 年 3 月 24 日～26 日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：日本のジュニア選手で年代別ジュニアチャンピオンを競う大会であり、
交流と技術向上を目的とする。

対象：男女アンダー19、17、15、13、11、9 の選手で日本国籍を有する者

参加人数：115 名

競技方式：トーナメント制
競技結果：U19 男子優勝/小林僚生(Sunset Breeze)
U19 女子優勝/杉本梨沙（近江高校）

② 海外大会日本代表派遣

イ) 第 16 回アジアスカッシュ選手権大会（個人戦）

<JOC 平成 23 年度選手強化委託事業>

日程：4 月 26 日～4 月 30 日

開催地：マレーシア/ペナン

種目：個人戦

参加：15 カ国・83 名

日本チーム：選手 8 名、役員 2 名 計 10 名

主な戦績：松井千夏/プレート優勝、小林海咲/クラシックプレート優勝

ロ) 第 11 回ミロ・オールスタージュニア大会

日程：5 月 31 日～6 月 5 日

開催地：マレーシア

種目：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13、11 の男女

参加：16 カ国、507 名

日本チーム：選手 7 名、役員 2 名 計 9 名

主な戦績：海道泰喜(U19-19 位タイ、スペシャル P4 位入賞)

遠藤共峻(U17-7 位)

尾瀨祐亮(U15-21 位タイ、クラシック P8 位入賞)

矢上龍昇(U13-25 位タイ)

山崎真結(U19-11 位タイ、スペシャル P4 位入賞)

杉本梨沙(U17-9 位、クラシック P 優勝)

渡邊聡美(U13-4 位)

ハ) 第 6 回東アジアスカッシュ選手権大会

日程：6 月 10 日～6 月 12 日

開催地：マカオ

種目：男 3 女 2 の混合団体戦

参加：6 カ国・29 名

日本チーム：選手 4 名、役員 2 名 計 6 名

主な戦績：日本 3 位

ニ) 第 18 回アジアジュニア個人選手権大会

<JOC 平成 23 年度選手強化委託事業>

日程：6 月 21 日～6 月 25 日

開催地：ヨルダン、アンマン

種目：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13、の男女

参加：15 カ国、168 名

日本チーム：選手 6 名、役員 2 名 計 8 名

主な戦績：小林僚生(U19-ベスト 16)、郡司颯(U19-1 回戦敗退)

遠藤共峻(U17-ベスト 8)、山崎真結 (U19-9 位)

杉本梨沙(U17-9位)、渡邊聡美(U13-3位入賞)

ホ) 香港ジュニアオープン 2011

日程：8月10日～14日

開催地：香港

種目：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13、11の男女

参加：9カ国、532名

日本チーム：選手11名、役員2名 計13名

主な戦績：小林僚生(U19-7位)、海道泰喜(U19-ベスト16)

遠藤共峻(U17-6位)、杉本梨沙(U19-ベスト16)

坂井日向子(U15-8位)、渡邊聡美(U13-優勝)

林尚輝(U17-ベスト32)、矢上大和(U15-ベスト64)

藤原優麻(U19-10位)、高橋ナナミ(U15-ベスト32)

小林七彩(U13-ベスト32)

へ) 香港協会50周年・日本協会40周年記念インターポートマッチ

日程：8月6日～8月8日

開催地：香港

種目：インターポートマッチ

参加：2カ国 16名

日本チーム：選手8名、役員1名 計9名

戦績：香港6対2日本

ト) 2011年日韓合同合宿・インターポートマッチ

<JOC平成23年度選手強化委託事業>

日程：8月30日～9月4日

開催地：韓国、仁川

種目：インターポートマッチ

参加：2カ国 16名

日本チーム：選手8名、役員2名 計10名

戦績：日本敗退

③ 海外派遣承認大会

イ) ペナンインターナショナルジュニア大会

日程：6月7日～11日

開催地：マレーシア、ペナン

種目：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13、11の男女

日本チーム：選手3名 計3名

主な戦績：遠藤共峻(U17-ベスト8位)、郡司颯(U19-17位)

ロ) USジュニアオープン

日程：12月17日～20日

開催地：アメリカ、ボストン

種目：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13、11の男女

参加：日本選手(男子3名、女子2名)

成績：小林僚生(U19-5位) 遠藤共峻(U17-7位) 海道泰喜(U17-ベスト32)

渡邊聡美（U15-4位）小幡恵怜奈（U13-3位）

ハ) ブリティッシュジュニアオープン

日程：平成24年1月2日～6日

開催地：イギリス、シェフィールド

種目：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13の男女

参加：日本選手（男子4名、女子2名）

成績：小林僚生（U19-21位）海道泰喜（U19-40位）遠藤共峻（U17-20位）
林尚輝（U17-32位）、坂井日向子（U15-20位）渡邊聡美（U13-4位）

ニ) スコティッシュジュニアオープン

日程：平成24年1月7日～1月10日

開催地：スコットランド、エディンバラ

種目：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13の男女

参加：日本選手（男子4名、女子2名）

成績：小林僚生（U19-9位）海道泰喜（U19-4位）遠藤共峻（U17-準優勝）
林尚輝（U17-24位）、坂井日向子（U15-優勝）渡邊聡美（U13-優勝）

④ 国際大会の日本開催に向けての資金及び情報の収集

目的：ジャパンオープンスカッシュ選手権大会や東アジアスカッシュ選手権大会等の国際大会を開催する事により、選手には海外選手との対戦機会を、一般には海外トップ選手のプレー観戦機会を作り、更に広く一般にスカッシュへの興味の高まりを招き普及を図る。

計画：協会創立50周年（平成33年）までに840万円を目標に、今年度は20万円の資金を積み立て、協賛企業が獲得できない場合でも国内に於ける国際大会開催を図る。

(4) その他本会の目的を達成する為に必要な共通事業

① アジア競技大会に向けてのロビー活動及び選手強化活動

成果：2014年のアジア競技大会（韓国/仁川）にもスカッシュが入る事となった。次回こそはメダル獲得に向け選手強化を図るため活動した。

対象：男女ナショナルチーム

種目：男女シングル戦、団体戦

② オリンピック競技大会での正式競技入り実現の為に推進活動

成果：WSF（世界スカッシュ連盟）との連携により、IOC（国際オリンピック委員会）並びに開催国スカッシュ協会への2020年オリンピック競技入り要請運動を展開した。

③ ドーピング検査及びドーピング防止啓蒙活動

成果：全日本スカッシュ選手権大会での競技会検査及びドーピング防止の為に啓蒙活動を積極的に行った。公式機関誌にドーピング防止関連の記事を掲載し、ドーピングに関する資料や冊子を配布した。

④ 会員募集事業と公認事業制度の運用

成果：平成 22 年度より個人会員登録及び協会公認・承認大会への参加は（株）アプロード運用の「スポーツエントリー」を利用して利便性を図っている。

世界スカッシュ連盟（WSF）の規格に基づいて、コート及びボールの公認を行いスカッシュ競技の安全性や統一を図っている。

又、公認大会の運用（要項、ドロー、結果の確認及び公認）やランキング等の発表を行い、公認大会の全国統一とレベルアップを図っている。

⑤ 世界スカッシュ連盟、アジアスカッシュ連盟、東アジアスカッシュ連盟、各国協会、男女国際プレーヤーズ協会等海外との連絡調整

成果：海外対策委員会を中心に海外の情報収集及び国内情報の発信及び海外との協力体制で積極的な活動を行った。

⑥ 全日本学生連盟との連携、強化

成果：平成 22 年度より学生連盟の所属選手も個人登録とし、協会機関誌を個別に発送する事により情報を一層密に伝達した。又、大会等における協力体制を強化した。

⑦ 「(公社)日本スカッシュ協会ナショナルトレーニングセンター(仮称)」建設に向けた資金及び情報の収集

成果：スカッシュ人口増大の為には、公共のスカッシュコートを建設しての普及活動が不可欠であり、集中的な選手強化の為にもスカッシュコートの建設が必要。国立競技場のスタンド下のスペースを有効利用して「(公社)日本スカッシュ協会ナショナルトレーニングセンター(仮称)」の建設を目指し、国会への請願署名活動を行なった。

多くの著名な方々に発起人になって頂き署名用紙等を作成し、第 40 回全日本スカッシュ選手権大会時にプレゼンテーションを行った。

全国の皆様のご賛同を得て 19,851 名の署名が集まった。

計画：協会創立 70 周年（平成 53 年）までに 1 億円を目標に、今年度 10 万円の資金を積み立て、不足分がある場合は基本財産や寄付金にて実現したい。

⑧ 公益法人制度改革における公益社団法人への移行認定により活動開始

目的：平成 24 年 4 月 1 日に公益社団法人に登記完了。6 月 25 日に設立総会を開催し、公益社団法人として活動を開始した。